

学 習 指 導 案

大分県立大分舞鶴高等学校
指導教諭 高橋 美津子
ALT Heather Byrd

1. 日時 2014年1月29日(水) 4限
2. 対象 1年5組(普通科応用クラス) 40名(男子19名 女子21名)
3. 科目・単元 英語コミュニケーションI

CROWN English Communication I (三省堂 : pp.112-125)

Lesson 7 "Not So Long Ago"

4. 単元(題材)について

(1) 生徒観

1年5組は男子19名、女子21名の応用クラスである。入学時の学力判定テストにみる生徒の英語力は、上位者も少なく、個人差が大きい。特に地道に語句の知識を増やしていくことを苦手とする生徒が多かった。

しかし、生徒は素直で、常に積極的な姿勢で授業に臨んでおり、音読や自分の意見を発表するなどの活動に取り組む姿勢はすばらしい。クラス全体の英語の成績も向上し、授業アンケートにおいても「英語コミュニケーションの授業が好き」と答えた生徒は9割を超える。

今日は、ビデオ撮影という特殊な環境なので、彼らがどれだけ普段通り授業に臨めるかいささか不安だが、一緒に達成感や充実感を味わうことを目指して授業を行いたい。

(2) 教材観

20世紀は、華々しく進歩を遂げた「科学技術の世紀」であった。しかし、科学技術は人類に便利さだけでなく悲劇ももたらした。大量殺戮を可能にしたからだ。2度の世界大戦だけでなく、大小の戦争や紛争が絶えなかった20世紀は、「戦争の世紀」でもあった。

このレッスンで生徒たちが目にする写真は雄弁である。「もしこれが私の家族だったら」「もしこれが友達だったら」と想像することで、戦争がいかに悲惨か生徒に共感的に理解させることができる。同時に、あまりの悲惨な状況に、「自分たちには戦争を阻止する力はない。」という絶望感でこのレッスンを終えてほしくない。また、戦争やテロや貧困はどこか遠いところで起こっている出来事であり、自分とは無関係でよかったとも思ってほしくない。

このレッスンは過去だけでなく現在の日本や世界の情勢について真剣に考える機会を生徒に与えてくれる。想像力を駆使しながら本文を読むことで「過去」を追体験し、悲劇を二度と起こさないために何ができるのかを考え、話し合う。国際言語である英語によるこのような活動をとおして、将来、世界が直面する問題を解決するための行動ができる人物に育ってくれるきっかけになることを切に願っている。

(3) 指導観

この授業では最初に Review として Part 1 と Part 2 を学習した後、前授業で生徒が書いたコメントを数人が発表し、それについてどう思うかを生徒に聞くところから始まる。

私は All English の授業では、ALT を活用するほうが効果的であると考えている。ALT は単なる assistant teacher ではなく、collaborating teacher である。生徒がコメントを述べた際、ネイティブの ALT から褒められコメントを返されることは、JET の私より、生徒の英語を自在に操りたいというモチベーションを高めてくれるからである。

また本単元のような歴史や時事問題を題材とした文章を読むとき、異文化で育ってきた ALT がどう考えるのかを聞けることもとても貴重な体験ではないだろうか。このレッスンで扱われるふたつの写真は、原爆とベトナム戦争の悲劇を訴える写真である。両方の歴史的事実の当事国出身である ALT はどう思うのかを私と同様生徒も知りたいと思うだろうし、それこそが「生きた授業」だと思う。

その後、発展的学習として「ネルソン・マンデラ」について生徒に読ませたい。戦争や紛争の原因でも結果でもある「なぜ憎しみの連鎖が止まらないか」を考えさせ、「赦す」ことで南アフリカを Rainbow Nation にすることに人生を捧げたマンデラの姿から解決方法を探してほしいと考えるからである。

新学習指導要領で求められる力をどのように育成するか考えたとき、投げ込み教材を使い、扱っているレッスンと関連はあるもののかかなり長い英文を、初見で内容把握も日本語ではなく英語だけで理解させることで対応しようと考え、4月から取り組んできた。生徒にはとてもチャレンジングな体験だと思うが、それこそ spontaneously に英語を学ぶ機会が与えられ、彼らの理解を更に深めてくれると信じている。

5. 単元の評価基準および評価方法

[評価基準]

①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動やグループ活動に積極的に取り組み、自分の主張を伝えたり相手の意見を取り入れようとする。 ・英文を読み、その内容に関して自分の考えを積極的に表現しようとする。
②表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を読み、得た情報や自分の考えなどについて、英語や日本語で相手に口頭で伝えることができる。 ・英文を読み、概要、要点や自分の意見をわかりやすい表現や論理的構造を用いて、英文や日本語を書くことができる。
③理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を読み、情報や相手の意向を正しく理解することができる。
④知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項：仮定法・S+V+O1+O2(疑問詞節)・付帯状況(with+O+前置詞句) make O C(原形不定詞)

[評価方法]

①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT と教室内を巡回し、ペア活動やグループ活動を観察する。観察の際、ペアを変えるなどして何度か繰り返し、必要ならば助言を与える。
②表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を読み、得た情報や自分の考えなどについて、自分の意見を相手に理解できる英語を使って伝えることができるかどうか、ペア活動やグループ活動及びクラスでプレゼンをさせ判断する。
③理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・予習プリント、T or F や Q & A など、さまざまなハンドアウトや活動を通して、理解度を判断する。授業終了後はハンドアウトを提出させ、記入内容を確認する。
④知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の使用場面と働きを意識した筆記テストにおいて、文法事項の使い方についての知識が身についているかどうか判断する。

6. 指導計画

- 1st period : このレッスンの概略と Part 1 の精読その 1 (予習プリント) [評価基準・方法③④]
言語材料 : S+V+O1+O2(疑問詞節)・仮定法過去
- 2nd period : Part 1 の精読その 2 (要約など) と音読 [評価基準・方法②③④]
- 3rd period : Part 2 の精読その 1 (予習プリント) [評価基準・方法③④]
言語材料 : 付帯状況(with+O+前置詞句)・仮定法過去
- 4th period : Part 2 精読その 2 (要約など) [評価基準・方法②③④]
- 5th period : Part 2 の音読と Group Work (自分の意見を書いた後、意見交換及び生徒による相互評価)
[評価基準・方法①②③]
- 6th period : Team-teaching (本時) [評価基準・方法①②③]
- 7th period : Part 3 の精読その 1 (予習プリント) [評価基準・方法③④]
言語材料 : 付帯状況 (with+O+前置詞句)・make O C (原形不定詞)
- 7th period : Part 3 の精読その 2 (要約など) と音読 [評価基準・方法②③④]
- 8th period : Part 4 の精読その 1 (予習プリント) [評価基準・方法③④]
言語材料 : S+V+O1+O2(疑問詞節)
- 9th period : Part 4 の精読その 2 (要約など) と音読 [評価基準・方法②③④]
- 10th period : Group Work (自分の意見を書いた後、意見交換及び相互評価) [評価基準・方法①②③]
- 11th period : Team-teaching [評価基準・方法①②③]

7. 本時の評価基準および評価方法

本時は、特に、5で述べた①関心・意欲・態度 ②表現の能力 ③理解の能力を判断する。



	学 習 内 容	指 導 内 容	評 価 の 観 点	min'
Greeting				
Introduction	●教科書 Part 3(pp.116) ①Part 2 を読んだ感想を発表する ②発表された意見に対してコメントする	()は中心となる教師 何も書いてないときはふたりで行う ①生徒が堂々と発表できるような環境作りをする ②発表された意見に対してコメントする(ALT)	自分の意見をみんなにわかるように、堂々と発表できているかどうか ① ②	10
Comprehension Further Learning	●Handout 1(本文) ●Handout 2 (Circle the correct answers) paragraph 毎に ①単語を発音する ②ALT の音読を聞き、内容を把握する ③正しいと思う答えを丸で囲む ④個々で答え合わせをする	①単語を発音する(ALT) ②音読する(ALT) ③正しい答えを丸で囲ませる(JTE) ④正しい答えを発表する(ALT) 必要があれば説明する(JTE)	正しく発音できているかどうか ハンドアウト 初見でほぼ内容が理解できているかどうか ② ③	12
	●Handout 3 (T or F by only listening) ①音読する英文が聞き取り、正誤かどうか判断できる ●Handout 4 (Correct the wrong parts of F sentences) ②個々でどこが間違っていたのか確認する ③ペア活動し F の英文を正しい文に書き直す ④間違った箇所を発表する	①英文を読む(ALT) 正しければ T を間違っていれば F を書かせ、必要ならば説明する(JTE) ②Handout 3 を使って答え合わせをさせる(JTE) ③ペア活動し誤りのある箇所を書き直させる ④答えがあっているかどうか確認する(ALT) 必要があれば説明する(JTE)	ハンドアウト 文意を正しく聞き取れるかどうか ハンドアウト 内容をより深く理解できているかどうか ① ② ③	12
	●Handout 5 (Q & A) ①ALT の質問を聞き取り正しく英語で応答する	②生徒の答えが正しいかどうか確認する(ALT) 必要があれば説明する(JTE)	内容をほぼ理解でき、ALT の質問を正しく聞き取り、単語レベルでなく文で答えられるかどうか ① ②	10
Consolidation	●Handout 6 (Presidential Inaugural Address of Mandela) ①ネルソン・マンデラの「赦す」という行為についてどう思うか英語で発表する	①ネルソン・マンデラの「赦す」という行為についてどう思うか発表させる	堂々と自分の意見を言えるかどうか ① ②	6